

第1、 近況、雑感

1. 大雪で余市の農業施設がつぶれた。1月逝って、2月は逃げて、3月去って、と、年度末は後始末に追われてばかりで、新しい農園開発は手付かず状態。衆議院もやっと予算が通過したようだが、高校の学費補助は国民の甘えの産物と感じるのは、70年以上前、月額300円(卒業時500円に増額)の奨学金を受けて、夜学から昼間生に進んだ私には夢のような措置。ご機嫌取りの談合予算、貧困で日々命を削っている人たちをどう考えているのか。その債務も結婚して長女が生まれてからやっと返済と、苦しかったことを覚えている。
2. そのワシントンDCに20年以上住んでいる長女から、アメリカファーストのトランプ劇場の残念な知らせ。5年間の奨学金を保障されてエール大学院に在籍する私の2番目の孫への支給中止決定。さてさてあと3年間どうするか、どうなるか、トランプ関税は他国の問題と見過ごしていた訳ではないが、何でもありのトランプ芝居はもっと人間を大切にしてほしいものだ。
3. 2~3月は確定申告書類の整理の月。年金と数カ所からの役員報酬と、少ない収入の中から一番多いのが老人税35万円、医療費は健康のためか国の負担額は5万円と少ないが、高齢者の医療費の値上げもやがて決まるだろう。が、風邪薬を買う代わりに病院に保険証で通えるこの国の保険制度が国家予算を苦しめているのだ。大改正が必要と考えるのは私だけではないだろう。悪法の最たるものだ。
4. 閑話休題、と気分を変えたいところだが、NHKに変わってここでクイズ。アメリカと日本で同じように苦しんでいることは何ですか。
イ・関税× ロ・物価値上がり× ハ・米不足× 正解は山林火災。100ha足らずの山しか所有していないが、アメリカ並みに火災保険をかけることは相当難しいようで、どうやって山林資源を守るべきか、年老いてまた心配ことが増えた感じで楽しくない。この災害大国はいつ「楽しい国」になるのでしょうか。
5. 福島重雄さんが94歳で亡くなられた。日本の憲法裁判史上唯一の自衛隊違憲判決を出した裁判長。上部からの裁判の独立を侵す行政文書も送られたり、林武さんがそのスクープで日本新聞大賞をとったことを加えて、同じ時期に札幌地裁刑事部に在籍した私にとって、書記官としても

先輩でもありお世話になった忘れられない人。福島さんは判決後 2 度と裁判長になれない裁判部門に左遷され、退官後富山市で弁護士になった。先の月報で書いた全学連による北大放火事件を担当したことも含めて、私の役人辞任の遠因となったが、辞職承認の辞令は、半年くらい遅れたのを覚えている。

6. そのすぐ後の 2 月 12 日、国際的デザイナーの五十嵐威暢さんが亡くなった、80 歳。JR 札幌駅正面の星の大時計の設計者、私の出身地滝川市の近所の戦前の造り酒屋の孫で多摩美術大学の学長も歴任したが、MINERA21 を買収した関連会社ナナトミリゾート(福島県いわき市、投資額 1,500 億円)の庭園デザイナーで、もう一度会う約束はかなわなかった。心より哀悼の意を捧げたい。

(サンケン環境株式会社・山形健次郎)

第2、 今月の報告文

- ・今 地球は？人類は？化学は？（中村桂子）

第3、 今月の本

- ・「医学問答」（仲野徹・若林理砂、左右社 1,980 円）
西洋と東洋から考えるからだと病気と健康のこと
- ・「死を生きる」（小堀鷗一郎、朝日新聞出版 2,420 円）
訪問診療医がみた 709 人の生老病死
- ・「人生の地図」の作り方（橋本努、筑摩書房 2,210 円）
悔いなく賢く生きるための 38 の方法
- ・「人類三千年の幸福論」（ヤマザキマリ、集英社 1,760 円）
ニコル・クーリッジ・ルマニエールとの対話
- ・「腸と脳」の科学（坪井貴司、講談社 1,210 円）
脳と体を整える、腸のしられざるはたらき

第4、 今月のことば

- 人生とは必ず途中で終わるものなのです。
人生とはだれでも途中で終わるものなのです。われわれの誰一人としてゴールインすることはできないのです。(松原泰道)
- 官僚というのは虚業中の虚業ですからね。何もつくり出してない。
(水木楊)
- 深く悲しむ人ほど強く喜ぶことができる。たくさん涙を流した人ほど大いに笑うことができるのです。(五木寛之)